

巻 頭 言

本誌は2012年に創刊された「恵寿総合病院医学雑誌」の第13巻にあたります。本巻には原著4編、総説8編、災害報告9編、症例報告2編の合計23編と当院で開催された過去1年間のTQM（Total Quality Management）大会での優秀賞6記録が掲載されています。

看護師特定行為、高齢者の精神症候、C型肝炎、洞不全症候群、オシメルチニブの副作用に関する論文の他に、今回掲載された論文の多くは、当院の各部署からの令和6年1月1日当地を襲った能登半島地震への対応等の震災関連の報告です。各部署の内訳は、看護部（産科病棟・回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟・障害者病棟・外来・手術室）、臨床工学課、放射線課、臨床栄養課、臨床検査課、リハビリテーション科、心療内科、健康管理センター、血液浄化センター、地域連携課です。また当法人内の老人施設である和光苑・鶴友苑からの報告もあります。さらに、能登半島地震における災害人道医療支援会（HuMA）の活動報告が掲載されています。公平（Fairness）、害を与えない（Do No Harm）、復元力（Resilience）、自己完結（Self-Sufficiency）、被益者の参加（Participation）など人道支援のキーワードに従って記述してあります。HuMAの皆様には、被災地のライフラインに依存せず、自己完結することを重要視し、食料・水・発電機・トイレを持ち込んで対応して頂きました。震災時に当院に対しても支援して頂いたHuMAの皆様にはこの場を借りて、お礼申し上げます。HuMAの人道支援という無償の愛や利他的行動には本当に敬意を表します。現在、当院は建物の修復など、復興の道半ばという状態ですが、落ち着いたら、今度は自分たちが支援者となるべく準備をせねばなりません。

支援といえば、当院はAIを様々な業務支援に用いています。2022年11月のChatGPTのリリース以来、AIが非常に身近となりました。当院では、AI問診・AIによる胸部単純写真読影支援・生成AIによる看護サマリー・医師の退院サマリー・紹介状作成・議事録作成・患者への説明内容の要約・論文やPDF内容の要約などを行っています。このように、当院ではAIによって、本来業務以外の業務を減らし、その空いた時間を利用者さんへの対応等の本来業務に充てたり、医療の質を上げたり、利用者さんにとっても満足してもらったりと、AI抜きの医療が考えられない現状となっています。医療情報の3大変革は、電子カルテ・遠隔医療・AIでしょうか。

一方で、私達医療従事者には、AIが苦手とする、創造力を働かせたり、ヒトの気持ちを汲み取ったり、人道支援などの目的意識を持ったりすることが、増々求められていく時代となっていくようです。

最後に第13巻の発刊を祝するとともに、第13巻発刊に際し、大変なご苦勞をされた新井編集責任者と大成編集補佐並びに飯山編集補佐に御礼申し上げます。また当法人以外から投稿して頂いた行徳総合病院の杉山和夫先生、淀川キリスト教病院の夏川知輝先生に深謝します。

2025年6月吉日

社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院

病院長 鎌田 徹